

シンテッポウユリ「さきがけ雷山」の切り下球根を利用した促成栽培

松村 司・浦田貴子¹⁾

(佐賀県農業試験研究センター・¹⁾佐賀県農業技術防除センター)

Tsukasa Matsumura and Takako Urata :

The development of forcing culture with bulbs of *L. × formolongi* 'Sakigake Raizan'

近年、シンテッポウユリの品種改良が進み、また、栽培の手軽さもあり、テッポウユリに劣らない品質のものが生産されるようになった。しかし、一般に栽培終了後の球根は廃棄されていた。そこで、シンテッポウユリの2年生球根を利用した12月出し促成栽培について検討し、成果を得たので報告する。

1. 材料および方法

供試材料は「さきがけ雷山」の据置2年球根を用いた。

試験1は、球根重5~10gを用い、24時間流水に浸せき後8℃で2週間の低温処理を行い、2001年8月24日、9月14日および9月21日に定植した。

試験2は球根重10~20gを用い、24時間流水に浸せきした流水・低温区、24時間ジベレリン100ppm溶液に浸せきしたジベレリン・低温区、45℃の温湯に60分間浸せきした温湯・低温区、低温処理のみを行った無流水・低温区および前処理を行わない無処理区を設けた。低温処理は各区とも所定の前処理後、8℃で2週間行った。

試験3は、球根の重量別に5~10g、10~20g、20~30g、30~40g、40~50g、50~60g、60~70gの7水準を設けた。試験2、3は2002年8月26日にビニルハウス内のコンテナ(53cm×34cm×20cm)当たり8球を定植し、3反復とした。夜間最低15℃で管理した。電照は光中断とし、発蕾揃いまで22:00~02:00までの4時間行った。

2. 結果および考察

試験1：定植時期と生育開花の関係では、8月24日、9月14日定植ではほぼ年内に開花したが、9月21日定植では1月以降の開花となった。切り花形質は、11月中に開花した8月24日定植は他の区より劣った。

試験2：球根の定植前処理と生育の関係では、生育初期の草丈は流水・低温区、温湯・低温区、ジベレリン・低温区の順に高く、無処理区では短かった。採花期の草丈は開花の遅れた無処理区で長くなり、他の区では大差なかった。前処理の違いによる採花時期は、温湯・低温区で早く、次いでジベレリン・低温区、無流水・低温区の順となり、流水・低温区では無処理区を除く他の区に比べ6日から10日遅くなった。切り花品質は温湯・低温処理区で切り花重がやや軽く、茎径が細くなった。花蕾数やその他の形質に大差はみられなかった。無処理区は

開花が遅く、節数が多くなり、草丈、重量等は他の区に比べ大きくなった。年内開花株の着花数では、流水・低温区は1,2輪の割合が多く、無処理区を除く他の区は3輪以上が60%以上であった。年内開花率は、無処理区では年内の開花はみられず4月以降の開花となった。他の区では無流水・低温区でやや低くなったが年内に大半が開花した。

試験3：球根重量の違いと生育開花の関係では、球根重が重くなるに従って採花日は、遅くなる傾向がみられた。球根重10~20gではほとんどが年内に開花したが、球根重20g以上では年内の開花率は50%以下となり、球根重40g以上では20~37%であった。切り花形質では、球根重10~20g区と20~30g区では草丈、節数等に大差はなかったが、球根重が重くなるに従って草丈は長く、節数は多くなる傾向がみられた。また、球根重30g以上では着花数は多くなるが、茎径が10mm以上と大きく、切り花重は300g強となりややボリューム過剰となった。着花数も、球根重量が重くなるに従って多くなり、球根重40g以上では10輪以上着花する株もみられた。

以上のことから、球根前処理については無処理を除くいずれの処理方法でも生育や開花時期に大差はなく、また、低温処理前の流水処理の有無による生育開花に差はみられなかったため、「さきがけ雷山」では、休眠性が弱いか、ないことが示唆される。低温処理前の休眠打破操作の必要性について検討の必要があると思われる。しかし、球根重が重くなると、生育開花が遅れることから、球根が重くなるほど休眠が深まることが考えられ、休眠打破の方法や低温処理法について検討が必要と思われる。

切り下球根を利用した12月出し促成栽培では、切り花品質、開花時期から10~20gの球根を利用し、8℃2週間の低温処理を行い、9月上旬に定植すると良いと思われる。

第1表 定植時期の違いと平均開花日および切り花形質(2001年「さきがけ雷山」)

定植日	平均採花日	切り花長 (cm)	節数 (節)	花蕾数 (輪)	花蕾長 (cm)	茎径 (mm)	切り花重 (g)
8月24日	11月15日	75.4	37.8	1.2	14.3	5.7	56.7
9月14日	12月26日	102.9	55.9	1.6	14.3	10.4	94.9
9月21日	1月9日	109.0	59.0	2.0	13.2	6.9	106.2

注) a) 低温処理: 8℃2週ユリコンテナ(54×34cm)に8球定植球根重: 5~10g。
b) 切り花長: 第1花の花梗基部までを測定。

第2表 球根の定植前処理の違いと切り花形質 (2002.12「さきがけ雷山」)

試験区	採花日 (月日)	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	節数 (節)	茎径 (mm)	花首長 (cm)	花蕾長 (cm)	花蕾数 (輪)	花蕾数割合		採花率 (%)	年内開花率 (%)
									3輪以下 (%)	4輪以上 (%)		
無処理区	4月5日	192.9	435.0	178.2	10.8	14.4	13.1	6.7	36.4	63.6	91.7	0.0
無流水区	12月7日	119.7	182.1	56.9	8.3	14.9	14.4	2.9	70.8	29.2	100.0	83.3
流水区	12月13日	121.4	186.2	59.8	8.4	16.4	14.7	2.3	84.6	15.4	108.3	91.7
温湯区	12月3日	119.5	168.9	58.0	7.9	16.4	15.1	2.6	91.7	8.3	100.0	100.0
ジベレリン区	12月5日	117.0	176.6	73.3	8.1	15.6	14.6	2.7	91.3	8.7	95.8	95.8

注) a) 採花率は定植株数に対する採花本数の割合。無処理区は年内開花しなかったため、全調査期間を通じ開花したものを記載した。
b) 無処理区は年内開花しなかったため、全調査期間を通じ開花したものの値を記載した。
c) 節数は切り花の節数、花首長、花蕾長は1番花を測定。
d) 年内開花率は12月中に開花した物の定植株数に対する割合。

第3表 球根重量の違いと切り花形質 (2002年品種「さきがけ雷山」)

試験区	採花日	切り花長 (cm)	切り花重 (g)	節数 (節)	茎径 (mm)	花首長 (cm)	花蕾長 (cm)	花蕾数 (輪)	採花率 (%)	着花数割合						年内開花率 (%)
										1輪 (%)	2輪 (%)	3輪 (%)	4輪 (%)	5輪 (%)	6輪 (%)	
5~10g	12月1日	96.3	108.4	45.0	7.0	15.1	13.6	1.8	83.3	30.0	65.0	5.0				79.2
10~20g	12月13日	129.9	205.6	69.4	8.7	16.4	14.1	2.5	104.2	19.0	47.6	23.8	9.5			91.7
20~30g	12月18日	126.8	220.3	79.8	9.9	16.0	13.5	3.6	62.5		16.7	41.7	8.3	16.7	16.7	50.0
30~40g	12月30日	143.7	319.0	90.6	10.3	15.8	13.6	5.1	79.2		0.0	7.7		15.4	61.5	54.2
40~50g	1月3日	114.3	380.1	100.5	11.2	14.6	14.5	6.5	50.0		25.0		50.0	0.0	0.0	20.8
50~60g	1月1日	157.8	426.0	93.1	21.6	16.1	13.5	6.6	50.0	11.1			11.1		77.8	37.5
60~70g	1月17日	160.0	496.6	122.8	12.3	15.2	14.0	8.5	54.2				25.0		75.0	22.2

注) a) 定植: 8/26, 流水処理: 24時間, 低温処理: 8℃2週間, 電照: 光中断 (9/27~12/2)。
b) 採花率は定植株数に対する採花本数の割合。
c) 年内開花率は12月中に開花した物の定植株数に対する割合。